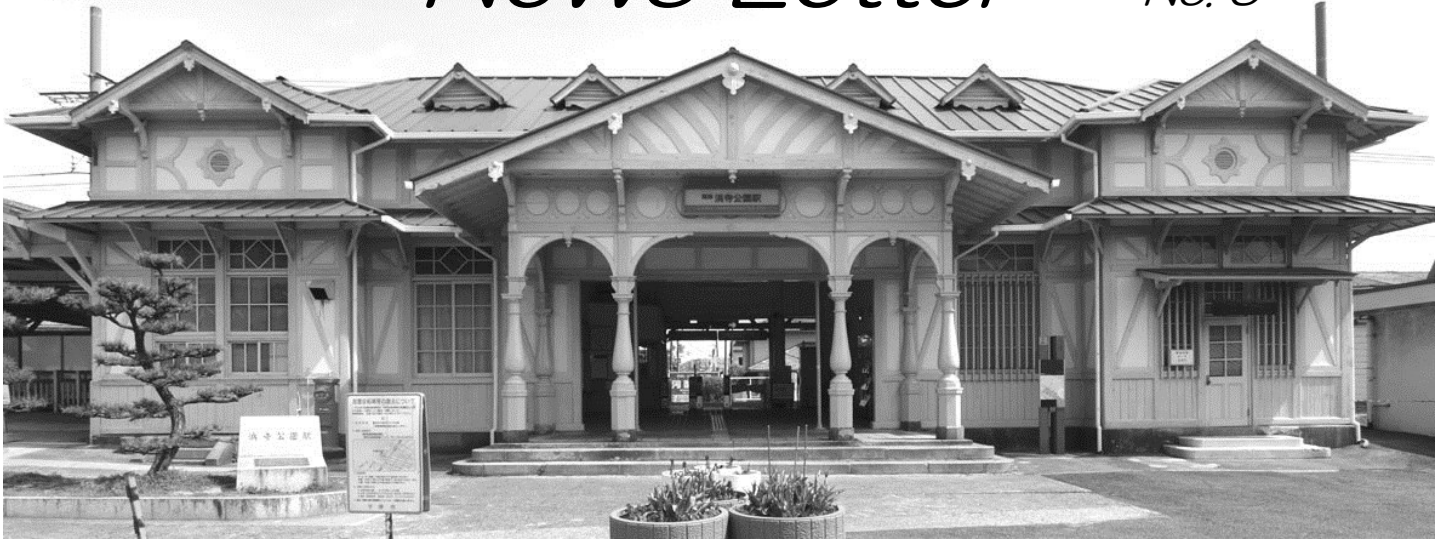


# News Letter

No. 5



## 平成26年度に向けて

### 平成25年度通常総会より

6月27日に前年度の総会が執り行われました。正会員数78名に対して、委任状の提出を含めて57名の出席があり、予定通りの審議が行われました。平成25年度は中間期で役員の交代もなく、また、事業の推進も特に問題が無かったので、事業報告と活動計算書が可決されました。

細かい内容については総会に先立ち会員の皆様に資料をお送りいたしておりますが、いきいきサロン、ふれあい食事会、ギャラリー展示会が予定通り実施されて、会計上は次の通りの結果となりました。

収益	582,070 円
費用支出	367,610 円
正味財産増減	214,460 円
次期繰越金	315,010 円

この結果は堺市にも報告され、また、期末の正味資産額は法務局に届け出て登記されました。

平成26年度も、いきいきサロン、ふれあい食事会、ギャラリー展示会を実施いたします。

本年度は駅前広場の工事が進展しますのでギャラリーの開催などは多少影響されるかも知れませんが、例年通り7月と12月の開催することで準備を進めております。この機会に何か面白い展示をしてみたいというご提案があれば、ぜひお申し出ください。

会員数も順調に増えております。二三年先には駅舎の仮利用が本格的に始まりますので、その体制整備に励みたいと思います。その際には施設の整備などで、本会の出費も一時的には増える見込みですから、それまでの会費などは、その準備基金としてできるだけ蓄積しておく所存です。

仮駅舎の活用施策については、今後、会員各位のご意向を取り入れて立案いたしますが、現在のギャラリー事業が通年で実施出来るほかに、駅務室の部分を活用して、まちの活性化につながる事業を作り上げたいと思います。

ご意見をお寄せ頂ければ幸いです。

### 連続立体交差事業の工程

石津川から羽衣までの全区間で用地買収のめどが付き、諏訪ノ森駅付近で残った建物の撤去が行われています。また、両駅ともに駅前整備が進展して、すこし輪郭が見えてきました。

浜寺公園駅から旧26号線までの駅前通は、両側の歩道の縁石が施工されましたので、道の輪郭が良く判るようになりました。阪堺線の駅のあたりの歩道幅も広くなるので、通行は今よりも安全になります。

その阪堺線は、高架工事が始まると、一時的に常浜線付近で折り返しになるといわれています。その場合、運行中断区間は、バスなどの代替策を採るということになっています。

浜寺公園駅周辺では、駅から鳳街道に出る通路が狭くなり自動車を通れなくなります。仮駅の建設が着手されると、いよいよ工事が始まったなという風景になると思います。南の方では、羽衣から高石にかけての工事が進んでいますので、近い将来のこちらの姿が想像できます。高架工事が始まると、進展は早く見えますが、それでも大工事ですので、5年、10年が一区切りの世界です。

## NPO法人日誌

平成26年4月27日  
第2回通常総会開催

浜寺公園駅ギャラリーにて  
地域の作品展開催  
平成26年7月と12月

いきいきサロン開催

4月、5月、6月、7月、9月  
10月、11月、12月、2月  
3月（実施と予定）

ふれあい食事会

6月、9月、12月、3月(予定)

**当法人は、登録有形文化財である浜寺公園駅舎の維持管理と活用に関する事業を行い、その活用事業をもって地域住民の交流を図り、周辺地域のまちづくりの寄与することを目的としています。**



### 新しい駅はこんな駅にしたい!

3月23日に堺市、南海電鉄、デザイン事務所と市民との第1回意見交換会が開催されて、活発な討議がなされました。

6月29日に第2回目の意見交換会が開催されますので、ぜひご参加下さい。

### 第2回市民意見交換会

平成26年6月29日 13:30~15:00

浜寺昭和校区地域会館にて開催

## 浜寺の歴史とこれからの浜寺昭和校区について

明治初年の浜寺は、今と比べると随分寂しい所でした。古い写真を見ると、駅から公園までの通りにも、ほとんど建物が無く、松林が広がっていました。大阪から堺を通過して和歌山に向かう紀州街道沿いは、石津川付近に下石津村があり、そこから南は羽衣あたりの新在家村まで集落は途切れて、寂しい所だったといわれています。

明治6年に浜寺公園が公立公園となり、その後、南海鉄道が開通した明治30年頃から、公園の中に別荘や料亭ができてはじまりました。その料亭の一つ、寿命館で与謝野鉄幹が主宰した歌会に晶子が初めて出かけたのは、明治33年と記録されています。明治35年には石神病院が開設され、白砂青松の浜辺の保養地として評価が高くなりました。

日露戦争の時には、高師浜に捕虜収容所ができ、そこから諏訪ノ森にかけての海岸にも、仮設のテント村が作られて、人の往来も増えました。戦争が終わって国内に海洋への関心が強くなり、明治39年には海水浴場と水練場が作られました。このような時代を背景として、明治40年に現在の浜寺公園駅舎が新築されました。設計したのは当時の日本の建築界の第一人者辰野金吾でした。また、設計事務所の共同経営者であった片岡安はこの時期に浜寺に居を移しています。

浜寺公園、浜寺停車場といった名前が付くように、このあたりは浜寺という地名で知られていますが、明治8年頃は地名は下村、船尾村、下石津村でした。明治22年に町村制度が出来たときに、これらの三村が合併して浜寺村となりました。浜の寺「大雄寺」があった場所という言い伝えが地名として認知されたのは、このとき以来だと思われます。

今の浜寺昭和校区は、元々は大鳥郡下村と呼ばれていた場所に当たります。村の中心は、今の浜寺元町で、周囲に田畑が広がっていました。住宅地は公園を中心に増

えていましたが、大正7年に浜寺土地株式会社が出来て駅の東側の鳳街道を中心に宅地造成を始めました。昭和初年には昭和小学校周辺にも宅地が増えて、関西随一の高級住宅地として知られるようになりました。昭和小学校が出来たのは昭和8年でした。

浜寺村は大正3年に浜寺町となり、昭和17年には堺市と合併しましたので、昭和校区のところには、現在の浜寺元町、浜寺公園町、浜寺昭和町、浜寺南町という地名が出来ました。

昭和30年代になると、田畑が少なくなり、そこに住宅が建ちました。また、あちこちに残っていた広い松林も住宅地になりました。

秋になると元町のお祭りがあります。だんじりがあることは村の絆が生きているという証しです。そこには、今様にいえばコミュニティーが存在します。しかし、駅周辺から始まった明治以降の住宅地には、コミュニティーの姿がハッキリとしていません。大正時代には清風会という社交クラブがあって、お茶会や歌会が開催されていたと伝えられていますが、住民が日常生活の中で、さまざまつながりを持って、「まち」の意識を作り上げるという形はうかがえません。また、線路をはさんだ東西のつながりも、西向きの駅では多くの住民にとっては近づきにくい場所になっています。

新しい駅が出来ることによって起こる大きな変化は、駅前の高架下に東西の自由通路が出来ることです。あの地下道をくぐる必要がなくなります。(まだ先の話ですが)

駅付近の高架下には、お店を作ることが出来ます。どこの町にもある駅前の賑わいを画くことが出来ます。公園と海水浴場に向いていた駅が、住宅地の方に向けた新しい顔を見せてくれるはずで、まちが楽しくなるように、自分達で新しいまちを育てましょう。

特定非営利活動法人 浜寺公園駅舎保存活用の会

堺市西区浜寺昭和町2丁177番5

電話: 072-266-1233

### NPO法人で何かやってみたいという会員募集

駅舎を保存活用して、楽しいまちづくりをする会です。駅舎の中でやってみたいことを募集しています。こんなことをやって欲しいと言うご希望も歓迎です。